

～一人ひとりを大切に～

戸田ゆき子の ニューズレター



2011.7.25. No.11

発行 戸田ゆき子とともに市政を考える会
〒284-0001 四街道市大日160-27
E-mail yukiko7toda@yahoo.co.jp

TEL & FAX 043-421-3541
郵便振替 00140-0-484033



政府・東電が早急に原発事故の収束に取り組むことは勿論ですが、市民や子どもたちの放射線による被曝を少なくすることを強く願ひ、私が代表を務める会派「四街道21」が発議者になり、「放射能汚染から四街道市民を守るための決議」(下

6月議会報告

暑中お見舞い申し上げます。
東日本大震災による犠牲者の皆様のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に一日も早く、普通の暮らしが戻ることを願わずにはられません。

6月議会は、3月11日に起きた東日本大震災により、3月議会で予定していた代表質問を取り下げられたことから、通常の一般質問ではなく会派の代表質問となりました。私の所属する会派「四街道21」は、3月議会で代表質問を実施済みにつき6月議会での質問はありませんでした。

市民や子どもたちの放射線による被曝を少しでも少なくするため

①「放射能汚染から四街道市民を守るための決議」 全員賛成

東京電力第1福島原子力発電所の事故により飛散された放射性物質への人体への影響が懸念され、とりわけ子どもたちは大人より影響を受けやすく、甲状腺がんのリスクは大人の2〜3倍といわれていることから、将来にわたる健康への不安が拡がってきています。

掲)を提出し、全議員の賛成で採択されました。今のところ、市が測定している小・中学校など市内38ヶ所の放射線量空間測定値は大きな値がでておりませんが今後、空間線量に変化が生じたり、原発事故の状況が変化したときには臨機応変な対応を市に求めると共に、決議内容の検証をしていきます。

放射能汚染から四街道市民を守るための決議 (案)

提出者	四街道市議会議員	戸田	由紀子
賛同者	四街道市議会議員	野村	裕
賛同者	四街道市議会議員	大熊	文夫
賛同者	四街道市議会議員	高橋	絹子
賛同者	四街道市議会議員	阿部	治夫
賛同者	四街道市議会議員	宮崎	昭彦

東日本大震災・津波で生じた福島第一原子力発電所事故により、放射能汚染の被害を被ることとなった。初期の爆発による大規模な空間への放射線放出は収まったといわれるがまだ放出は続き、汚染された冷却水などが漏れ、地下水や海洋に浸透している可能性も高い。

また、現在、文部科学省は放射線量の目安として年間20ミリシーベルトという基準を示している。この数値は、国際放射線防護委員会(ICRP)の勧告および3月21日付声明の「非常事態収束後」の基準、参考レベルの1〜20ミリシーベルトの最高基準であり、成長期にある子どもの健康を考慮しておらず、国民を放射線障害から守るための基準値とするには心許ない。

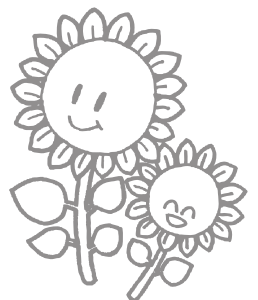
本来、原子力災害は国が責任を持って対処すべき問題だが、既に県内でも汚染報道が相次ぎ、四街道市民の不安が高まっている状況を放置することはできない。従って、市民の生活と安全を守る観点から、以下について、その速やかな対応を市に求める。

- 1、子どもたちが利用する市内公共施設について、空間放射線量を適宜、定点・測定し、公表すること。
- 2、子どもたちが利用する頻度が高い施設の土壌について、放射線量の測定を必要に応じて行い、公表すること。
- 3、地下水の汚染の可能性について、常に情報を収集すること。水道水の安全確保に努めるとともに、必要に応じて放射線量を測定すること。
- 4、小中学校のプール指導に関しては、放射線量を必要に応じ測定し、公表すること。
- 5、内部被曝など、今後想定され得る放射線被害について、市民が正しく理解できるように、適宜、放射線被害対策の情報提供に努めること。
- 6、文部科学省の示した放射線量年間20ミリシーベルトという高い基準値は、成長期にある子どもへの発ガンリスクを高めることになり、子どもにとって安全とは言えない。国民の健康を守るべき政府に対して、文部科学省の示した暫定基準値を取り消し、安全と思える基準値を早期に定め、国民に周知するよう求めること。
- 7、市が対応しきれないものについては、国や県に要望すること。

以上、決議する。

平成23年6月24日

四街道市議会



②「放射線被曝から子どもたちと市民を守るための陳情」も全員賛成

6月補正予算

幸いなことに本市は、東日本大震災による大きな被害を受けずに済みましたが、公共施設等の補修など緊急対応が必要な事業に限定した24,756千円の計上となりました。

議案質疑では、今後起きるであろうと予測されている直下型地震などに備え、災害に強いまちづくりへの考え方を聞きました。耐震指標の低い市役所庁舎は、建て替えるかどうか検討。栗山小学校の体育館の耐震化は前倒しで取り組む。一般住宅の耐震化促進は、当初予算で対応するが増加したら今後検討したいなどの答弁がありました。

財源内訳

○事業中止による減額

▲18,730千円
職員住宅解体工 10,937千円
市制施行30周年記念のつどいほか 5,990千円
事業仕分け委託料ほか 1,803千円

※事業仕訳については業者委託を止め、内部評価を充実して実施

○特別職の給与などの減額

▲6,026千円
市長、副市長及び教育長の給与等を今年度末まで20%減額

歳出内訳

道路・排水溝の舗装、整備、修繕工事ほか 24,756千円
小・中学校9校の維持補修工事 10,869千円
四街道公民館工作室補修工事 9,252千円
千代田保育所土留め補修工事 2,478千円
2,157千円

福島県南相馬市に行ってきました

5月19日、市民有志8名と福島県南相馬市に行ってきました。目に入ってくる風景は、田んぼに打ち上げられた何隻もの船とがれきの山。人っ子ひとり通らない道。車が1台もすれ違わない道。シーンとした風景が広がっていました。南相馬市の人口は約7万人ですが、一時は約6万人に避難指示が出されるほどの被害を受けました。

四街道から持参した野菜やたまごを鹿島地区の給食センターに届けました。震災前は1700食をセンターの職員が作っていましたが、現在は2570食を被災したり避難したために離れていったセンター職員に代わり教職員が中心になり作っています。メニューは、おにぎりと牛乳、コッペパンと牛乳というもので、成長期の子どもたちの栄養面はもちろん衛生面、人手、食材も限界とのことでした。

持参した野菜やたまごの量は十分とはいえないけれど、本当に喜んで受け取って頂きました。

天災と人災により3月11日を境に生活を一変させられてしまった被災地の人々とお会いして、自分の目で現地を見ること、自分の耳で事実を知ることの重要性を改めて実感いたしました。



戸田ゆき子とおしゃべりサロン

(議会報告会)

日時 8月17日(水)14時～
場所 文化センター206号
無料

議会のこと・市のこと・どんなことでも・どなたでも。お待ちしております。



やっと実現！市内中学生を広島に派遣

かねてより市民から提案されていた市内中学生の広島への派遣事業が、市制30周年記念事業としてやっと実現することになりました。

日時 8月2日(火)～3日(水)

一泊2日

参加者 生徒10名(市内5中学校から2名ずつ)

行き先 広島市平和公園・被爆体験

講話受講、江田島市海上自衛隊第一術科学校構内教育参考館ほか

費用

市負担 672,000円

参加者負担・保険料(約500円)

派遣された中学生たちの報告は、市政だよりやホームページで体験記・写真などが掲載される予定ですが、子どもたちの生の声を聞くのが一番ですので報告会などの実施を要望しました。今年限りではなく、佐倉市などのように毎年継続しての派遣を求めています。

9月議会日程(案)

9月1日(木) 開会
7日(水)～8日(木) 各常任委員会
9日(金)～16日(金) 一般質問
20日(火)～26日(月) 決算審査特別委員会
29日(木) 閉会
傍聴においでください